

2022. 9. 5

# Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

- 植物モニタリング活動 9/12、9/19 9:00 ため池公園スタート
- 赤塚公園ニリンソウを守る会 9月例会=9/11 10:00 大門観察台 秋の大門観察会  
★いずれも、飛び入り参加歓迎！ 雨天は小雨でも中止

<問合せ：赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

## 早くも秋到来！



3週間前に各所で満開だったキツネノカミソリは、今は丸い実になってあまり目立たなくなっています。替わりに満開を迎えているのが**ミズヒキ**です↑今年背丈が高いものが目立ち、裏の白い部分も腰をかがめなくても見ることができます。紅白のひもがお祝いののし袋を結んでいる水引に似ているので、そう呼ばれています。

↑城址のバッタ広場周辺で目立つようになってきたのが**キンミズヒキ**。ミズヒキに似て、ひも状の花茎に花が付くのですが、ミズヒキはタデ科、キンミズヒキはバラ科です。

←林の中の半日陰では**ヤブラン**。今年は紫色が鮮やかです。

### これでも花→

日がよく当たる場所では**ヒナタイノコズチ**が咲いています→花びらがなくて色もついていないのですが、これでも花。日差しを受けた咲き始めの姿は瑞々しいものです。しっかり見てあげてください。



## 生物多様性保全エリアで草刈りを行ないました



大門地区のロープを張った生物多様性保護エリアは3年前の整備工事以来、草刈りを行ってきませんでした。8月下旬から9月上旬にかけて、東京都公園協会



が初めての草刈りを行いました。生えている植物を全部根こそぎに刈り取るのではなく、繊細な野草を残すために地表から20cmの高さでの刈り取りを行いました。その結果、ミズヒキやヤブタバコなど秋の花がなくなりました。でも、植物を伸び放題にしても問題は出てくるものです。あと何年かかけて、どのようなやり方がふさわしいのかを見極めていくことになります。

## ボランティアによる手入れも行っています

植物の観察を主目的とするモニタリング活動ですが、必要に応じて簡単な手入れも行っています。9/5は城址北側斜面下の平坦部分で、マユミの木を覆っていたカラスウリとクズのつるを抜き取る作業を行いました。マユミは赤塚公園では希少な樹木で、雌株にはきれいな実が付くのですが、これにつる植物が絡んでしまうと枯れてしまう危険があるからです。



林や草原の手入れとは実に難しいもので、一律に草刈りや剪定を行えばよいというものではありません。対象になる場所と植物の種類によって「ここはどうしようか」と話し合いながら作業を行っています。

## 「なんだ？ これは！」の植物、またまた登場



←去年までチカラシバが咲いていた場所で、花の咲いた後の穂が変な色と形の植物が出現しました。チカラシバの花後の実は左の黄柾囲み写真のように茶色。むしろ、これは8/15レポートで紹介した大型のエノコログサの実（その下の写真）に似ています。

かと思うと右の写真、メヒシバの小穂の花茎が分かれる前の束になっている状態の先端が色づいているのが見つかりました（右の写真）。花穂のように見えたので

触ってみると、粉が飛び散りました。これは、病気か虫が付いたのでしょう。しょっちゅう観察していてもいろいろなことが起こるものです。

